

オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第72号

2014年10月6日

<http://www.australianstudies.jp/>

1. 2014年度全国研究大会を終えて

代表理事 福嶋輝彦

去る7月26・27日の2日間にわたって、上智大学四谷キャンパスにおいてオーストラリア学会(ASAJ)2014年度全国研究大会が開催されました。今年は「グローバル化の時代におけるオーストラリア研究」を共通テーマにASAJ創立25周年記念国際学会として、全世界に対して英語での研究発表を呼びかけたところ、日本・オーストラリア・中国・スペイン・タイからの参加者による、5つの全体プログラムと、11に分かれた一般研究発表セッションに、延べ40名以上がスピーカーとして参加し、フロアも加えて活発に議論を交わすという、ASAJとしては空前の規模の大会を無事終了することができました。本企画に寛容な助成をいただいた豪日交流基金・上智大学・リそなアジア・オセアニア財団に、心よりお礼申し上げます。また大会の企画に始まり運営に精力的にご尽力いただいた25周年記念国際学会実行委員の皆さま、特に終始この構想をリードされてきた、有満保江先生・鈴木雄雅先生の献身的な努力に、改めて深く感謝いたします。

研究発表の内容については、ASAJウェブサイトに掲載した予稿集に譲るとして、ここでは、大会の最後を飾る「グローバル化時代におけるオーストラリア研究の将来」と題するセッションでの議論をご紹介しておきましょう。参加各国の代表的研究者によるディスカッションでは、これまでもネットなどを通じて世界各国のオーストラリア研究を束ねようとする試みはされてきたものの、お互い未だ十分に情報が行き渡っていないこと、が指摘されました。加えて2016年には北京でオーストラリア研究の国際学会が計画されている、との報告も受けました。そうであれば、ASAJには、こうした国際的な連携のさらなる強化に貢献することが求められている、との思いを強くしました。

一方で、ASAJの持続的発展のためには、会員に研究発表の場を提供していくという、学会としての本源的な役割も充実していく必要があるでしょう。その意味では、大会第2日目の総会で「オーストラリア学会優秀論文賞」の設立が正式に承認されたことは、特筆に値する進展と言えるでしょう。内容については、この学会報での記載を参照いただくとして、会員の皆さまには奮って投稿をお願いいたします。このように2014年度全国研究大会でASAJは新たに設えた帆を張り、世界のオーストラリア研究への航海に出港することができました。この航海を順風満帆に続けていくのが第9期理事会の今後のミッションと心得ておりますので、会員の皆さまには引き続きよろしくご協力をお願い申し上げます。

2. 「2014ASAJ国際学会/ソフィアシンポジウム」を終えて

大会実行委員会事務局 鈴木雄雅/有満保江

2014年のオーストラリア学会は、創立25周年事業として初の国際学会を上智大学において、ソフィアシンポジウムとタイアップして開催することが、第8期理事会で決定された。第9期理事会において、大会実行委員会事務局を引き受けることとなり、1年あまりの準備期間に数回の実行委員会を招集し、委員の方がたのご意見を集約しながら、企画、運営に奔走した。この紙上をお借りして、協力を賜った第8期、9期の運営委員会委員や理事の皆様、そして会員の皆様に厚くお礼申し上げます。

国際学会開催にあたり、世界に向けての報告者公募に対して総数56件の応募があった。その後の選定作業、決定通知を経て来日までこぎつけた発表者は28名(当日26名)となった。ゲストを含め海外から総勢40名近い研究者をお迎えした本学会初の国際大会は試行錯誤の連続であり、2日間の開催・運営能力としては限界に近いものだった。詳細は予稿集、AJF事業報告に譲るが、大会運営・内容ともに、本学会が「オーストラリア学」を専門とする研究者の国際的な発表、交流の場に値するものであるという評価を、多くの方々から頂いたことを報告したい。そして、次に向けて新たな国際的発信と交流を継続して行かなければならないことを痛感している。



ソフィアシンポ



懇親会

25周年記念事業実行委員会・国際大会実行委員会＝福嶋輝彦（委員長）、有満保江、飯笹佐代子、加藤めぐみ、鎌田真弓、川口章、塩原良和、鈴木雄雅、関根政美、永野隆行。

3. 2014年度総会報告

日時：7月27日（日）13:00～13:30

場所：上智大学 四谷キャンパス 2号館 17F 1702 教室

以下の議題が審議され、承認された。

1. 2013年度一般会務報告
 - ①2013年4月1日より、学会業務委託先変更
 - ②2013年度全国研究大会、名古屋商科大学で開催
 - ③「学会報」第69、70、71号発行
 - ④学会誌『オーストラリア研究』第27号発行
 - ⑤地域研究会開催
2. AJF 事業報告
3. 優秀論文賞規程
4. 2014年度活動計画
 - ①2014年度全国研究大会、慶應義塾大学大学で開催
 - ②「学会報」第72、73、74号発行
 - ③学会誌『オーストラリア研究』第28号発行
 - ④地域研究会開催
 - ⑤第1回優秀論文賞発表
5. 2013年度決算案・監査報告
6. 2014年度予算案

4. 第9期第3回理事会報告

1日目

日時 2014年7月25日（金）17:00～19:00

場所 上智大学 四谷キャンパス 7号館 4F 文学部共用室 A

2日目

日時 2014年7月27日（日）12:00～13:00

場所 上智大学 四谷キャンパス 1号館 5F 510

出席者＝青木麻衣子、福嶋輝彦、花井清人、石井由香、川口章、栗山直子、馬淵仁、三宅眞理、村上雄一、永野隆行、岡本哲明、佐和田敬司、塩原良和、吉田道代（以上、理事、ABC 順）、白江英司、多田稔（以上監事）、委任状2通

【報告事項】

1. 岡本理事より、2014年度から学会誌の査読者を1論文2名とするとの報告があった。
2. 村上理事より、「学会報」第72号の発行時期についての報告があった。

【議題】

- 第2回理事会議事録（案）が承認された。
- 川口理事より2013年度活動報告があり、承認された。
- 永野理事より2015年度の全国大会について提案があり、承認された。会場校は慶應義塾大学（担当：塩原理事）となった。
- 青木理事より『オーストラリア研究』第28号の編集方針について提案があり、承認された。学会創設25周年記念国際会議の特別講演とシンポジウムのパネリスト報告を、学会誌に掲載することとなった。
- 優秀論文賞規程（案）について審議し、一部修正の上、承認された。
- 優秀論文賞の英語名をASAJ Best Article Awardとすることが承認された。
- 優秀論文賞選考委員会細則（案）について審議し、一部修正の上、承認された。
- 塩原理事より2013年度決算（案）の提案があり、承認された。
- 塩原理事より2014年度予算（案）の提案があり、承認された。
- 2013年度入会者7名、退会者9名が承認された。

5. オーストラリア学会財務諸表（決算）

オーストラリア学会財務諸表

貸借対照表
平成26年3月31日現在

科目	当年度	前年度	増減
I. 資産の部			
1. 流動資産			
現金	362	0	362
郵便貯金口座	0	3,781,060	△ 3,781,060
普通預金	3,890,352	0	3,890,352
郵便振替口座	236,800	33,680	203,120
未収金	0	0	0
流動資産合計	4,127,514	3,814,740	312,774
資産合計	4,127,514	3,814,740	312,774
II. 負債の部			
1. 流動負債			
前受会費収入	53,000	21,000	32,000
未払金	402,450	398,350	4,100
流動負債合計	455,450	419,350	36,100
負債の部合計	455,450	419,350	36,100
III. 正味財産の部			
1. 一般正味財産			
正味財産合計	3,672,064	3,395,390	276,674
負債及び正味財産合計	4,127,514	3,814,740	312,774

正味財産増減計算書

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

科目	当年度	前年度	増減
I. 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
①基本財産運用益	824	666	158
②受取会費	1,758,000	1,609,000	149,000
③雑誌販売収入	6,160	96,136	△ 89,976
④前年度大会補助残金	147,345	0	147,345
⑤未収金	0	0	0
⑥過年度未記帳分	0	0	0
経常収益計	1,912,329	1,705,802	206,527
(2) 経常費用			
①事業費			
大会及び研究会旅費補助等	150,000	0	150,000
特別会計繰入金	208	0	208
25周年記念事業積立金	200,000	300,000	△ 100,000
調査事業費	0	0	0
事業費計	350,208	300,000	50,208
②管理費			
印刷費	440,348	464,175	△ 23,827
会議費	86,490	115,070	△ 28,580
消耗品費	31,500	0	31,500
通信費	114,411	53,920	60,491
謝金	0	20,000	△ 20,000
業務委託費	612,698	378,000	234,698
雑費	0	0	0
管理費計	1,285,447	1,031,165	254,282
経常費用計	1,635,655	1,331,165	304,490
当期経常増減額	276,674	374,637	△ 97,963
2. 経常外増減の部			
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	276,674	374,637	△ 97,963
一般正味財産期首残高	3,395,390	3,020,753	374,637
一般正味財産期末残高	3,672,064	3,395,390	276,674
II. 正味財産期末残高	3,672,064	3,395,390	276,674

収支決算書

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

科目	予算額	決算額	差異
I. 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
①基本財産運用益	1,000	824	176
②受取会費	1,650,000	1,758,000	△ 108,000
③雑誌販売収入	20,000	6,160	13,840
④前年度大会補助残金	0	147,345	△ 147,345
⑤その他	0	0	0
経常収益計	1,671,000	1,912,329	△ 241,329
2. 事業活動支出			
①事業費			
大会及び研究会旅費補助等	100,000	150,000	△ 50,000
特別会計繰入金	150,000	208	149,792
25周年記念事業積立金	200,000	200,000	0
事業支出計	450,000	350,208	99,792
②管理費			
印刷費	350,000	440,348	△ 90,348
会議費	100,000	86,490	13,510
消耗品費	20,000	31,500	△ 11,500
通信費	50,000	114,411	△ 64,411
謝金	15,000	0	15,000
業務委託費	650,000	612,698	37,302
雑費	10,000	0	10,000
管理支出計	1,195,000	1,285,447	△ 90,447
事業活動支出計	1,645,000	1,635,655	9,345
事業活動収支差額	26,000	276,674	△ 250,674
II. 投資活動収支の部			
III. 財務活動収支の部			
IV. 予備費支出の部			
当期収支差額	26,000	276,674	△ 250,674
前期繰越収支差額	3,395,390	3,395,390	0
次期繰越収支差額	3,421,390	3,672,064	△ 250,674

特別会計

25周年記念事業積立金特別会計

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

科目	金額
収入	
前期繰越金	300,000
一般会計繰入金	200,000
収入合計	500,000
支出	
通信費	930
支出合計	930
収支差額	499,070

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式を採用している。

(2) 棚卸資産の評価

棚卸資産については、金額的に重要性がないために評価をないものとみなした。

財産目録(総括表)

平成26年3月31日現在

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)			
現金預金	手元保管 普通預金 ゆうちょ銀行口座 郵便振替口座 郵便貯金口座 25周年記念事業積立金(ゆうちょ銀行)	口座解約時利息分 運転資金として 運転資金として 25周年記念事業運営のため	363 3,890,352 3,890,352 236,800 236,800 500,000
流動資産合計			4,627,514
資産合計			4,627,514
(流動負債)			
未払金		翌事業年度以降会費	403,380
前受会費収入			53,000
流動負債合計			456,380
負債合計			456,380
正味財産			4,171,134

監査報告書

財務諸表及び注記を監査した結果、適正かつ正確であることを報告します。
平成26年1月2日

夕田 稔
白江 英司

6. オーストラリア学会財務諸表(予算)

オーストラリア学会2014年度収支予算書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

科目	予算額	前年度予算額	差額
I. 事業活動収支の部			
1. 事業活動収入			
①基本財産運用益	1,000	1,000	0
②受取会費・入金金	1,680,000	1,650,000	30,000
③雑誌販売収入	20,000	20,000	0
④その他	0	0	0
経常収益計	1,701,000	1,671,000	30,000
2. 事業活動支出			
①事業費			
大会及び研究会旅費補助等	100,000	100,000	0
特別会計繰出金	150,000	150,000	0
25周年記念事業積立金	200,000	200,000	0
事業支出計	450,000	450,000	0
②管理費			
印刷費	376,000	350,000	26,000
会議費	100,000	100,000	0
消耗品費	20,000	20,000	0
通信費	50,000	50,000	0
謝金	15,000	15,000	0
業務委託費	650,000	650,000	0
学会賞品購入費	30,000	0	30,000
雑費	10,000	10,000	0
管理支出計	1,251,000	1,195,000	56,000
事業活動支出計	1,701,000	1,645,000	56,000
事業活動収支差額	0	26,000	△ 26,000
II. 投資活動収支の部	0	0	0
III. 財務活動収支の部	0	0	0
IV. 予備費支出の部	0	0	0
当期収支差額	0	26,000	△ 26,000
前期繰越収支差額	3,672,064	3,395,390	276,674
次期繰越収支差額	3,672,064	3,421,390	250,674

オーストラリア学会2014年度創立25周年記念事業特別会計収支予算書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

科目	予算額	前年度予算額	差額
収入			
前期残高繰越			499,070
積立金			200,000
計			699,070
支出			
25周年記念国際大会開催校補助			400,000
印刷費			5,000
通信費			5,000
残高繰越			289,070
計			699,070
収支差額			0

全国研究大会 個別報告者募集

オーストラリア学会 2015 年度総会・全国研究大会は、6月13日(土)・14日(日)の両日に、慶應義塾大学で開催される予定です。(詳細は会報次号 [2月発行予定] でお知らせいたします。)
個別報告の発表を希望される会員は、氏名・所属・題目を明記の上、11月末日までに、学会事務局あて書面(メール可)にてお申し込みください(200字程度の要旨を添付してください)。

7. 2016 年度全国研究大会 開催校ならびに企画の募集

2016 年度(2016 年 6 月) オーストラリア学会全国研究大会の開催校、ならびに企画を募集しております。大会開催、もしくは企画にご協力くださる会員の方は、本年 11 月末日までに、永野隆行(企画担当副代表理事、tnagano@dokkyo.ac.jp)までご連絡ください。なお企画については、豪日交流基金(AJF)助成金対象事業として助成金を申請する予定です。

8. 第 19 回地域研究会(関西例会)のお知らせ(共催:追手門学院大学オーストラリア研究所)

*非会員の方も参加できます(発表は英語及び一部日本語を交えて行われます)

テーマ:西オーストラリア州ブルームにおける日系移民社会の形成

日時:2014年10月18日(土)14:00-17:00

場所:追手門学院大学5号館8階大会議室AB

連絡先:追手門学院大学 オーストラリア研究所(〒567-8502 大阪府茨木市西安威2-1-15)

ホームページ <http://www.otemon.ac.jp/cas/>

E-mail: cas@otemon.ac.jp Tel:072-641-9667 Fax:072-643-9476

*参加ご希望の方は10月14日(火)までにメールまたはFAXでお申し込みください。

交通：JR 茨木駅西口から南へ徒歩7分「イオン茨木ショッピングセンター」横、または阪急茨木市駅西口すぐから追手門学院大学スクールバス(13:30)をご利用ください。

発表：Cate Pearce (日豪交流史研究者、Noreen Jones 研究後継者)

① Whitewash: Anglo-Australian bias in the accounts of the 1920 Broome “race riots”

<1920年ブルーム人種暴動記録にみるイギリス系オーストラリア人の偏見>

1920年にブルームで起こった日本人とティモール人との衝突事件をめぐる新たな解釈

② “Envisioning Meiji Australia: the portrayal of self-identity in the Yamamoto family album of Broome c1896-1914”

<1896-1914年ブルームの山本家アルバムにみる自己アイデンティティ>

明治期のブルームの写真から日本人アイデンティティを読み取る

〔話題提供〕：「ノリーン・ジョーンズ氏が描く日本人像」

北條正司(高知大学教授、Noreen Jones 著『第二の故郷』、『北上して松前へ』訳者)

*本研究会に関連して、10月17日(金)15:30-17:00追手門学院大学で開催されるオーストラリア研究所主催の公開セミナーにおいてCate Pearce氏が発表されます。詳細は上記研究所ホームページをご参照ください。

9. 第9回地域研究会(関東例会)のお知らせ

***事前申し込み不要、非会員の方も参加できます。**

テーマ：オーストラリアの財政・政府間財政関係

日時：2014年11月15日(土)14:00~17:00

場所：成城大学3号館1F 311教室

〒157-8511 東京都世田谷区成城6-1-20

小田急線「成城学園前」駅北口下車 徒歩約3分

【大学キャンパスマップ】

<http://www.seijo.ac.jp/access/campusmap.html>

〔報告1〕「オーストラリアとニュージーランドの税・給付制度 —累進度および再分配効果と効率性等との相克—」

加藤 慶一(国立国会図書館 調査及び立法考査局財政金融課)

本報告では、国際的にみて特徴的なオーストラリアとニュージーランドの税・給付制度について考察する。税・給付制度を類型化した上で、両国の制度が、相対的な規模の小ささにもかかわらず、個人所得税中心の税制とミーンズテストを多用する給付制度の組合せにより、全体として累進度が高いという点を明らかにする。また、両国の税・給付制度を具体的に紹介し、歴史的な変遷にも触れつつ、そのような特徴的な仕組みを採るに至った背景を探る。一方で、近年、公平性を重視する両国の税・給付制度は効率性との相克に直面していることを指摘し、改革に向けた動きを紹介して結びとしたい。

〔報告2〕「オーストラリアにおける財政再建 —政府間財政の視点から—」

橋都 由加子(東京大学大学院経済学研究科特任助教)

世界的金融危機によって財政赤字が生じたものの、オーストラリアの財政状況は他の先進国と比較して堅調である。これは、1980年代から90年代にかけて財政再建に成功し、持続的に財政の健全性を維持しているためであるが、本報告ではこの財政再建がなぜ可能となったか、政府間財政の視点から検討する。1970-90年代を対象に、財政赤字削減を目指す連邦の取り組みが州財政に与えた影響を明らかにし、経済改革における州の協調について考察する。

〔総合討論〕座長：花井清人(成城大学)

オーストラリア学会主催、成城大学経済研究所共催

連絡先：成城大学経済研究所

〒157-8511 東京都世田谷区成城6-1-20 Tel.03-3482-9185,9187 Fax.03-3482-7851

e-mail：keiken@seijo.ac.jp ホームページ：<http://www.seijo.ac.jp/keiken/>

10. 会費納入のお願い

年会費の請求は年度の始まり4月に行いますが、年会費が納入されると、納入時期にかかわらず未払い年度がある場合そこへ充当されます。たとえば2014年5月に年会費を納入しても、2013年度未払いの場合、それは2013年度の会費となります。すなわち、2014年度は未納ということになります。また2012、2013年度未払いの場合、2012年度分の会費納入になります。

<2013年度分会費及び会費が未納の会員の皆様へ>

会費が未納の皆様へは、請求を別便にて送付します。未納年度分(2012年度を含め最多3か年)を速やかに振込票にて納入願います。未着のかたはアカデミーセンター「オーストラリア学会」担当までお知らせ願います。なお、会費振込票に会員名の記載がない場合、振込会員を特定できないため、必ず会員名をお書きください。また原則領収書は発行していません。郵便振替票の受領書などをご利用願います。

会費未納の会員の皆様に関しましては、当該年度の会費納入が確認され次第、学会誌『オーストラリア研究』(現在2014年3月発行、第27号)までをお送りしております。事務局では3か年分の在庫を保管しておりますので、順次発送しておりますが、お手元に届くまで若干時間がかかる場合もあります。会費納入にもかかわらず未着の学会誌がありましたら、恐縮ですが、学会事務局(アカデミーセンター)にご連絡ください。

11. 『オーストラリア研究』投稿募集および研究文献目録掲載のお知らせ

『オーストラリア研究』に掲載する論文を募集しています。投稿は常時受け付けておりますが、29号に掲載する論文の投稿は来年8月末日が締め切りです。詳細は、学会ウェブサイト、もしくは27号掲載の「投稿要領」(2011年12月11日一部改訂)をご覧ください。

また第12号以降、会員の研究文献目録を継続して掲載しております。引き続き会員の協力をお願いします。発表された著書、論文、報告書、翻訳などのなかから、オーストラリア学会の趣旨に関する目録未掲載の研究文献を選び、お知らせください。28号(2015年3月発行予定)掲載の締め切りは2014年10月30日(期日厳守)です。編集作業の都合上、電子メール(またはテキストファイルを含んだCDもしくはUSB)をご利用ください。記入例はバックナンバーを参照し、掲載書式に必ず準ずる形でお送りください。

なお、「オーストラリア学会優秀論文賞」が創設され、学会員によって投稿・掲載された日本語・英語の論文が選考対象となりますので、会員の皆様方には奮って投稿をお願いいたします。

投稿先は:〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター オーストラリア学会
TEL:03-5937-0249,FAX:03-3368-2822 email:asaj-post@bunken.co.jp

12. 新刊のご案内

濱野 健『日本人女性の国際結婚と海外移住——多文化社会オーストラリアの変容する日系コミュニティ』

明石書店、2014年6月30日(定価 4,600円+税、ISBN:978-4750340272)

山内由理子編『オーストラリア先住民と日本—先住民学・交流・表象』

御茶の水書房、2014年8月22日(定価 3000円+税、ISBN:978-4275010810)

早稲田大学オーストラリア研究所編『映画で知るオーストラリア』

オセアニア出版社、2014年9月15日(定価:本体1200円+税、ISBN:978-4872031133)

【諸届出/連絡先/投稿先】

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター オーストラリア学会 担当

TEL:03-5937-0249 FAX:03-3368-2822 Email:asaj-post@bunken.co.jp

※2013年4月以降変更になりました。ご注意ください。

【オーストラリア学会事務局】

〒602-0047 京都市上京区新町通今出川上ル 同志社大学政策学部 川口章研究室気付

TEL:075-251-3469 E-mail:akawaguc@mail.doshisha.ac.jp

会費振込先:00190-3-157063 加入口座名:オーストラリア学会

※本会報は学会記録のほか、会員からのご意見や著書・新刊情報などを掲載します。学会事務局までお送りください。なお紙面の制約上、掲載できない場合がありますことをご了承ください。

[編集担当:村上雄一(福島大学) / 編集協力:濱野健(北九州市立大学)]